

## 雲仙岳の火山活動解説資料（平成 25 年 11 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 11 月の活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

噴気活動は低調に経過しました。

\* 気象庁野岳遠望カメラ障害のため、雲仙復興事務所岩床山監視カメラで噴気の有無を観測しています。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3）

火山性地震の月回数は 22 回（10 月：21 回）と少ない状態で経過しました。震源は、平成新山直下の海拔下 1～2 km 付近に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした（10 月：なし）。

#### ・地殻変動の状況（図 4～7）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

22 日に実施した仁田峠第 2 展望所からの光波測距観測によると、前回（2013 年 3 月 7 日）と比べて観測点間の距離に大きな変化はありませんでした。



図 1 雲仙岳 噴気の状況  
(11 月 4 日、雲仙復興事務所岩床山監視カメラによる)

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 12 月分）は平成 26 年 1 月 14 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州大学、国土地理院及び長崎県を經由した九州地方整備局（雲仙復興事務所）のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用、『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号、平 23 情複、第 492 号）。

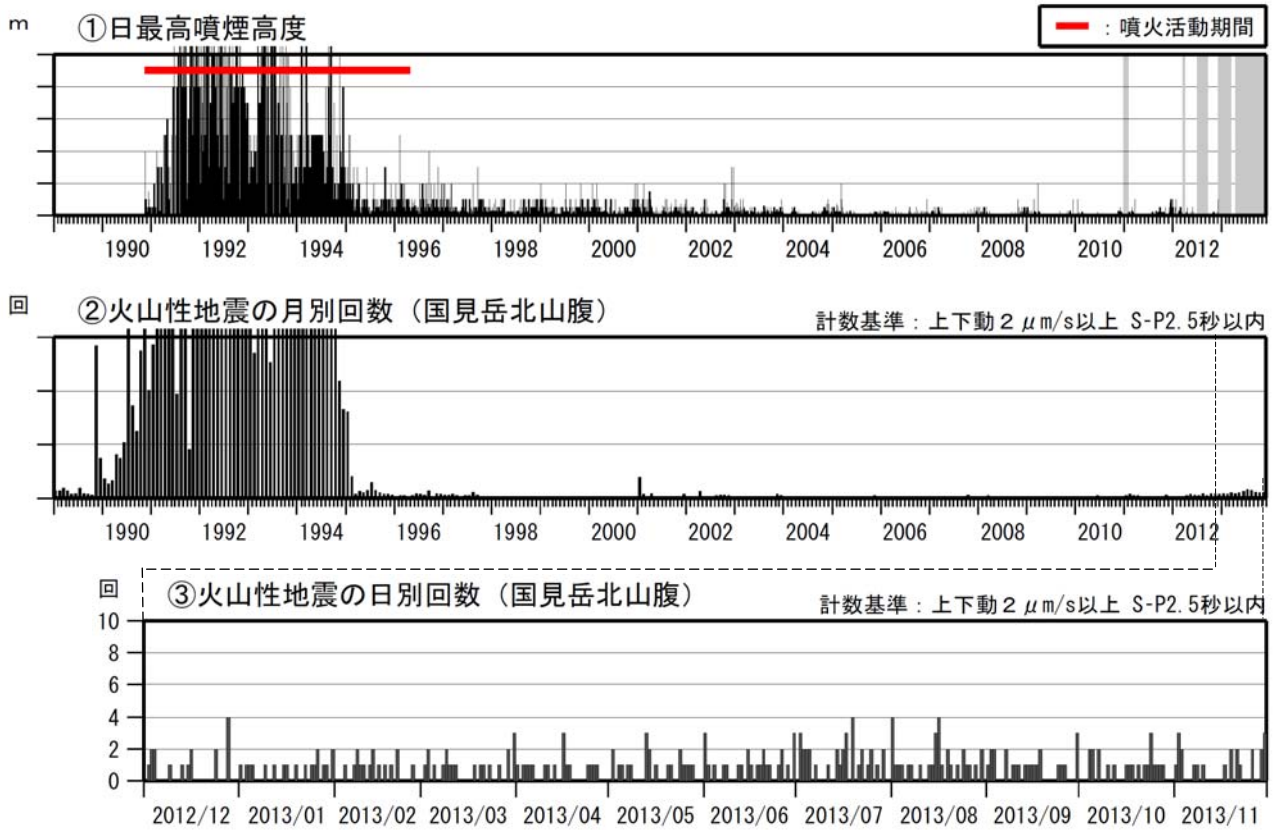


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2013年11月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

<11月の状況>

- ・噴気活動は低調に経過しました。
- ・火山性地震の月回数は22回（10月：21回）と少ない状態で経過しました。

火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動  $5 \mu\text{m/s}$ 以上）で計数しています。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測を示しています。

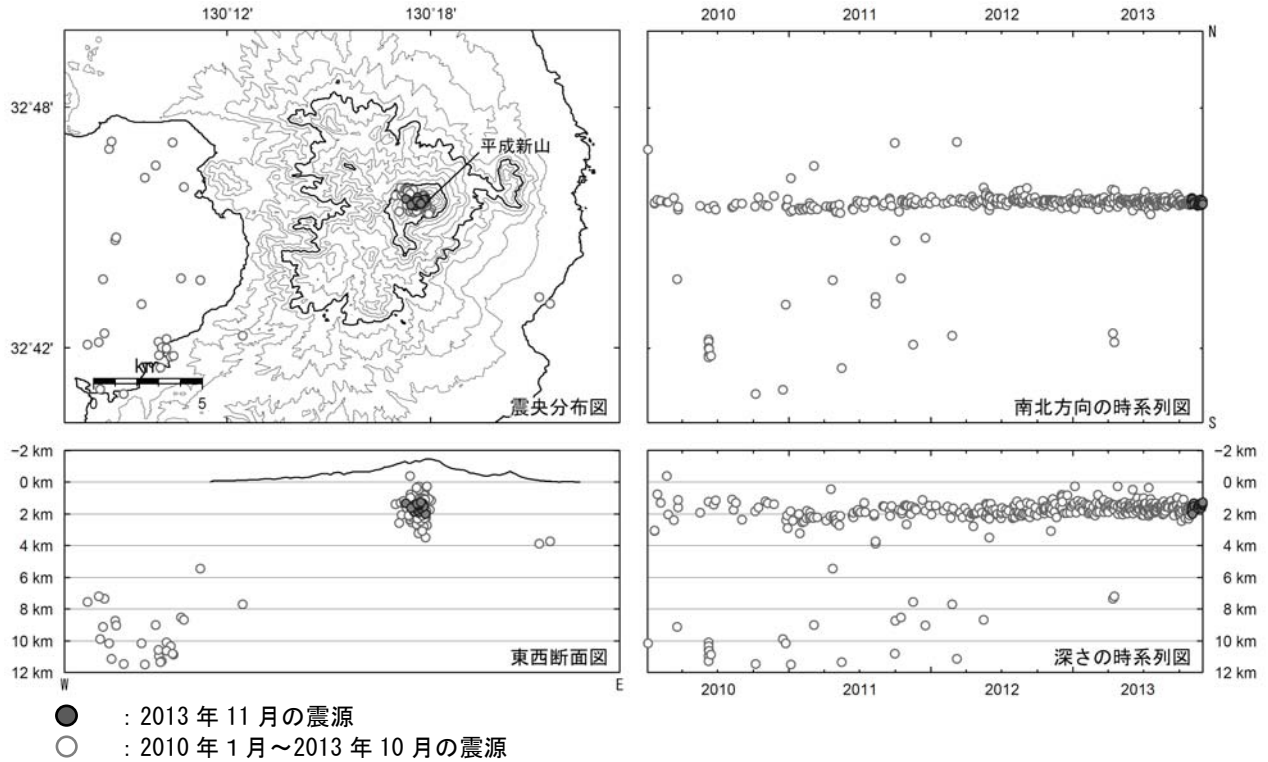


図3 雲仙岳 震源分布図（2010年1月～2013年11月）  
 <11月の状況>  
 震源は、平成新山直下の海拔下1～2 km付近に分布しました。

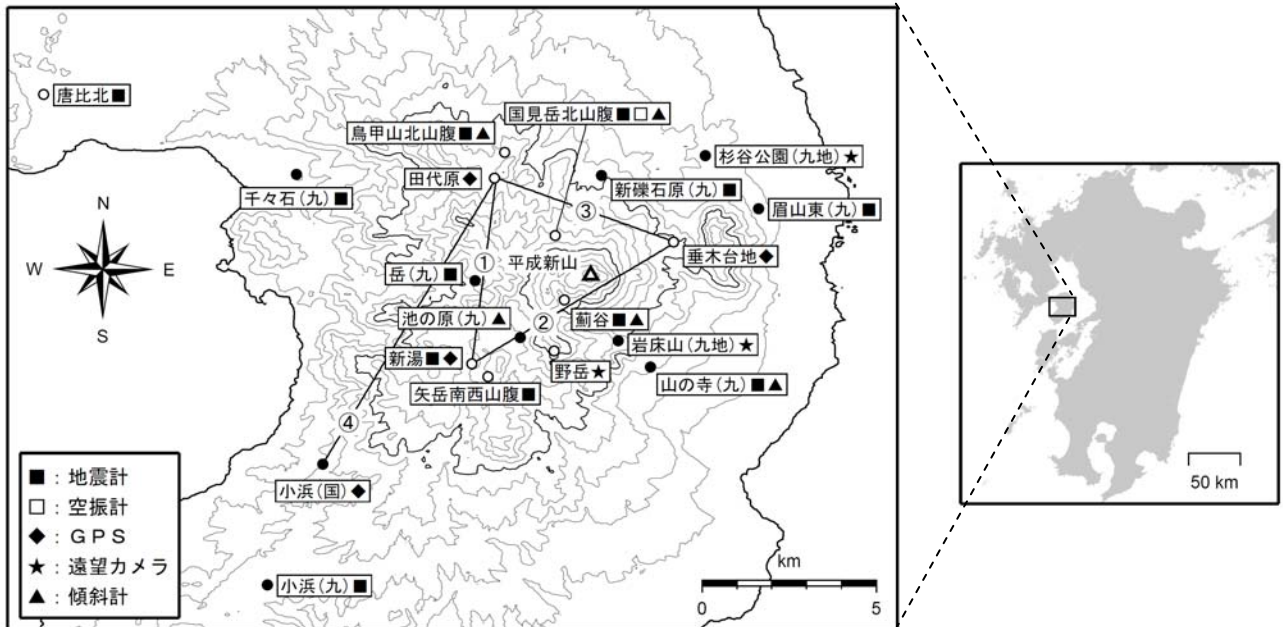


図4 雲仙岳 観測点配置図  
 小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(九地): 九州地方整備局、(九): 九州大学

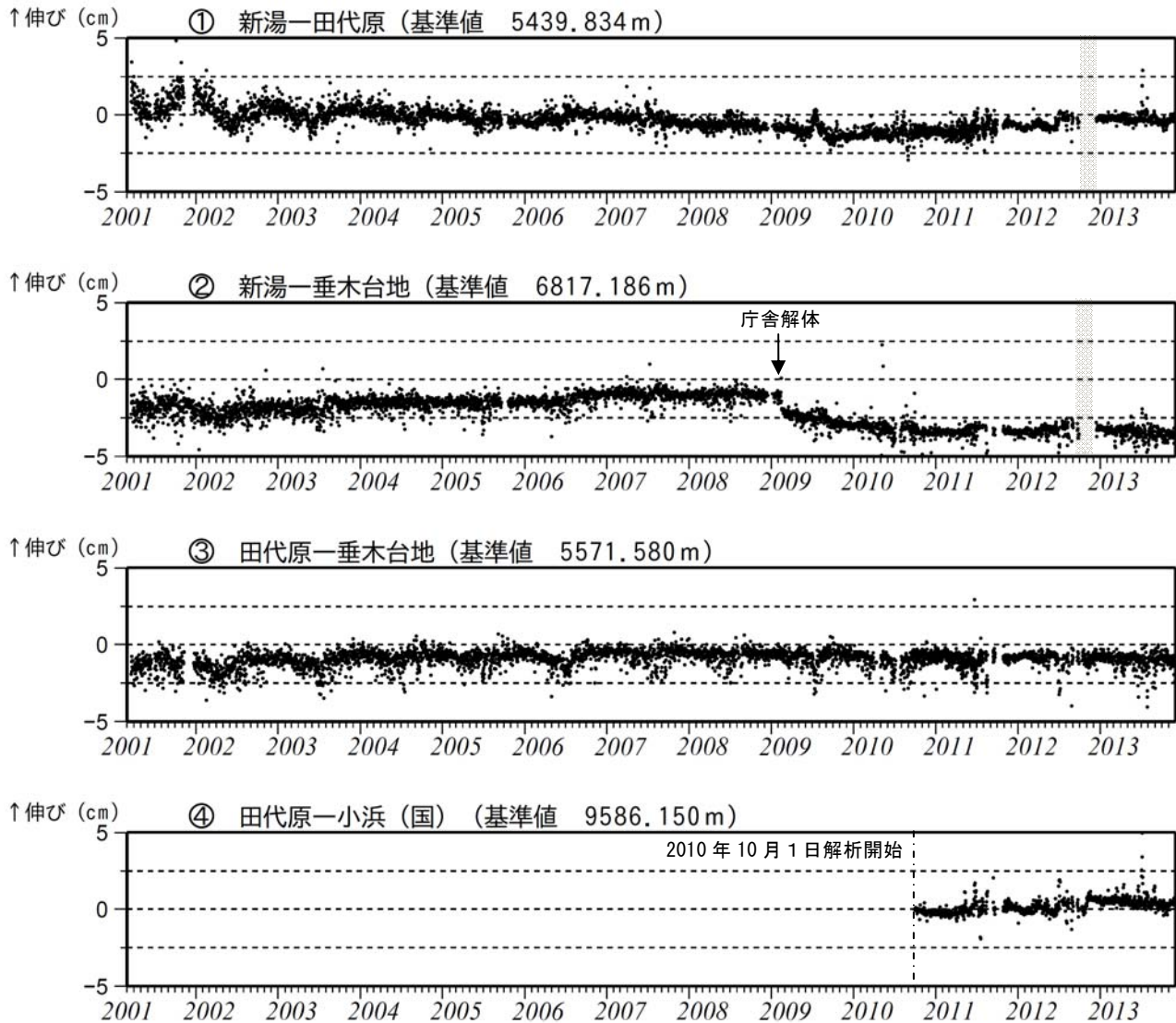


図5 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2013年11月）  
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図4の①～④に対応しています。

②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。  
2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。  
灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

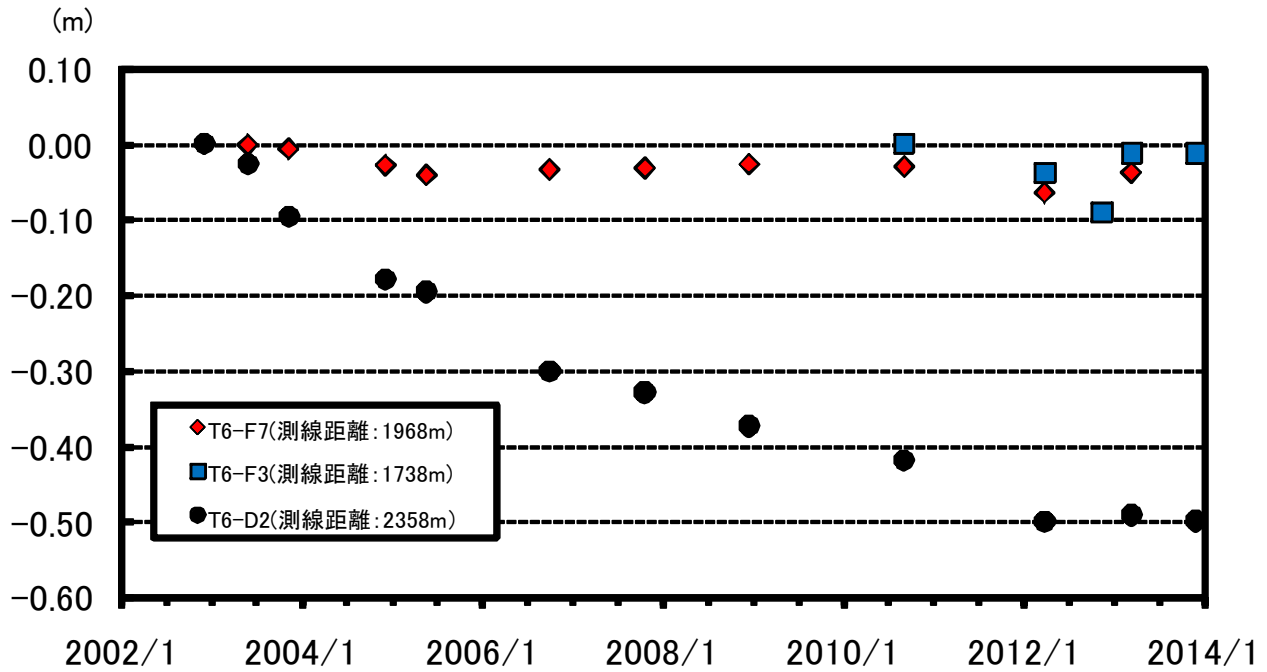


図6 雲仙岳 T6 (仁田峠第2展望所) からの光波測距測線距離の時系列変化  
(2002年12月~2013年11月)

22日に実施した仁田峠第2展望所からの光波測距観測によると、前回(2013年3月7日)と比べて観測点間の距離に大きな変化はありませんでした。

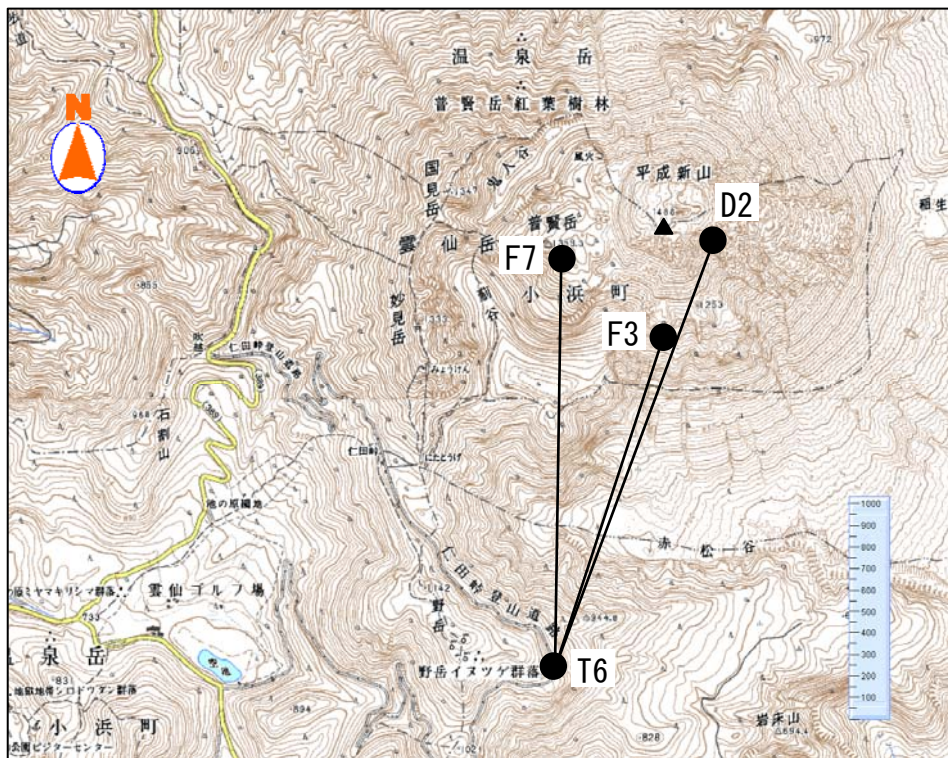


図7 雲仙岳 T6 (仁田峠第2展望所) からの光波測距測線